

山形大学 校友会会報

YAMAGATA UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION

14
SEPTEMBER 2019



Contents

校友会 NEWS	2
海外大学への留学生の現地レポート	
「若手卒業生の会」開催報告	
人財バンク登録事業	
八峰祭にて校友会学生幹事による芋煮ブース出店	
平成 30 年度事業紹介	4
事業紹介と参加学生さんのコメント	
事業に参加した学生さんからのメッセージ	6
INFORMATION	8



2019年度校友会「学生幹事」委嘱状交付式

校友会とは…

校友会は、山形大学の発展に寄与するため、学生の学業及び課外活動等への助成並びに全学的なキャンパス間の交流活動に支援を行うとともに、会員相互の親交を図り、「山形大学コミュニティ」の醸成・強化に資することを目的としております。

|校友会|NEWS|

1 海外大学への留学生の現地レポート



フランス・アンジェの街並み

「大学間交流協定大学への派遣留学生校友会支援事業」の支援を受けて、海外の協定大学に留学中の学生さんから届けられた現地での様子を紹介します。

今回はフランスに留学中の本間美雪さんからの報告です。

人文学部人間文化学科3年 本間美雪さん 留学先：アンジェ大学（フランス）

私は現在フランスにあるアンジェ大学 CeLFE で語学留学をしています。留学が始まっていますから 2 カ月ほど過ぎ、残りの留学生活も半分を切りました。本レポートでこれまでの留学生活を紹介します。

1. 生活面

私は現在、登録する際に大学から紹介された学生寮に住んでいます。授業のある学部棟まで徒歩 5 分ほどのところにあり、寮の近くにはスーパー、マーケットもあったりしていてとても便利です。

部屋は個人部屋になっていて、キッチンや洗濯機は共用で使うことになっています。

アンジェの中心街まではバスで行くことができます。カフェや映画館はもちろん、アンジェ城や美術館があるので、週末に友達と遊びに行ったり一人でゆっくり過ごしたりすることができます。アンジェは緑豊かでかつ伝統的な街並みが残っていてとても美しいです。

2. 学習面

CeLFE の授業はレベルごとに授業数や内容が異なってきます。私は最初のプレースメントテストで A2 (初級の上) のクラスに振り分けられました。Cours de langue, Atelier de production écrite/ grammaire, Atelier de production orale, Culture de la vie quotidienne, Phonétique, Option: photo/ vidéo の 6 種類の授業が週に 15 コマあります。

A2 のクラスには私も含め 12 人の学生があり、毎日一緒にフランス語を勉強しています。授業の合間に休憩時間や午後に授業がない日などは図書館や大学内でクラスメートと勉強したりお喋りしたりして過ごしています。様々な国や様々な背景をもっている学生がたくさんいるので、日常生活の中でも様々な違いや発見があります。

3. その他

山形大学で合気道部に所属していること、フランスでも合気道が盛んなことから、留学中も合気道をしようと決めていました。大学の体育施設でもどんなスポーツでも 1 つなら無料で行うことができるのですが、合気道の定員が満員であったため道場を探しました。

現在は道場で月曜と木曜の夕方の週に 2 回稽古をしています。フランス語での稽古は難しいですが、技の違いがあったりたくさんの人との出会いがあったりして稽古はとても楽しいです。大学にいるだけでは現地の人々と交流することは難しいので道場に登録して本当に良かったと思っています。

旅行も楽しんでいます。大学が留学生向けに企画してくれたソムリュールへの小旅行や秋の 1 週間ほどのバカンス中にロワールの古城を少し訪れたりしました。

サミュールへの旅行ではワイン醸造所や修道院、秋のバカンス中にはプロヴァンスやシャンボル城などを訪れました。学生割引があるので週末や休みを利用してもっと色々な所へ行ってみたいですね。

留学生活は毎日充実していくあっという間に過ぎていきます。CeLFE の授業も 11 月で終わり、12 月の 2 週間ほどのテスト期間が終わると今学期が終了します。残された短い留学生活をこれからも大切に過ごしていきたいと思います。本レポートで少しでも私の留学生活が云われれば幸いです。

最後になりますが、この留学という貴重な経験への校友会の皆様のご支援に感謝します。



クラスメート（筆者は前列左）

友人宅で韓国料理・日本料理を作りました（筆者は右手前）

2 「若手卒業生の会」開催報告



キャンパスイノベーションセンターにて

鈴木 康平さん（北海道釧路市出身）

平成 29 年 3 月 工学部電気電子工学科卒業
インターネット広告会社営業部 勤務

皆さん、こんにちは！

私は 2 年前に山形大学工学部を卒業後、東京のインターネット広告会社にて営業の仕事をしております。オフィスは超高層ビル街の「西新宿」にあり、電車を「〇時電」と言っていた学生時代には考えられなかった満員電車に毎日乗って、出勤しています。上京する前は、「満員電車 = 辛い移動時間」というイメージしかなかったのですが、実際に乗ってみると、想像よりも辛い時間ではありませんでした！

平成 31 年 3 月 2 日（土）に東京都にて開催された「第 4 回山形大学若手卒業生の会」に参加致しました。参加されていたのは、20 ~ 30 代の山形大学卒業生と現役の山大生、そして山形大学校友会職員の方々です。

開催日が平成最後の年度末であったため、今回の若手卒業生の会は「平成を振り返る」がテーマに設定されました。前半は、山形大学理事・副学長の大場好弘先生から「山形大学の平成を振り返る」という内容で、山形大学の平成の変化を日本・世界の出来事を交えてご紹介いただきました。山形大学が法人化されたときのエピソードや学部再編の話など、学生のときには全然知らなかった山形大学を知ることができ、学生時代よりも大学について詳しくなったと思います！

後半は、卒業生の伊藤大貴さんから「平成の自分自身を振り返る」というテーマで、参加者それぞれが自身の平成の人生の浮き沈みを人生グラフとしてグラフ化し、分析、その後 3 名 1 組のグループ内で発表するというワークでした。

ワーク結果からわかったことは、24 年間の人生の中で、人生グラフの浮き沈みが最も激しかったのは、大学生のときです。初めての一人暮らしで、そのときに感じた色々な感情をワーク中に思い出し、少しセンチメンタルな気持ちになりました。

東京にいながら、山形大学出身者と山形に関する思い出話をすることことができ、心が落ち着く…そんなコミュニティが私の中で、山形大学若手卒業生の会になっています！



鈴木さん



ワークの様子

平成30年度に実施した事業の中から、新規或いは特徴ある4つの事業を紹介します。
在学生の活躍や卒業生の活動など種々な事業を展開しています。

3 人財バンク登録事業



是川副学部長(左)と遠藤氏(右)

平成31年1月23日(水)16時30分から、人文社会科学部205教室において、山形大学校友会「人財バンク登録事業」を活用した卒業生講演会を行いました。この講演会は、校友会の「人財バンク」に登録された先輩卒業生に、現在携わっている仕事に関することなどをお話しいただき、後輩となる学生へのアドバイスや参加学生からの質問への回答もお願いしています。

今回は、人文学部を卒業され、校友会理事も務められている東北経済産業局産業振興課長・遠藤憲子氏を講師にお迎えし、「東北・山形の地域・産業政策に携わって」と題した講演を行っていただきました。「公務員」「お堅い」「地味」といったイメージを払拭するようなユーモアあふれる話と、遠藤氏の体験を交えた東北・山形への想いに、学生からは「大変わかりやすかった。」「遠藤さんの行動力に非常に驚いた。『無駄なことは何もない。』という言葉を胸に、大学生活を有意義に過ごしたい。」「『就職することがゴールではない。その先が大事だ。』という言葉が印象に残った。」「私も、山形の魅力を東北、そしてその先に伝えられる仕事に携わりたいと思った。」などの感想が寄せられました。



遠藤憲子 氏

講演会の様子

4 八峰祭にて 校友会学生幹事による 芋煮ブース出店



校友会学生幹事のブース

喜早 純也さん
校友会学生幹事(医学部看護学科1年)

昨年の様子を紹介します。

校友会学生幹事は、昨年10月20日と21日に行われた山形大学の学校祭である「第52回山形大学八峰祭 平成最後のお祭り騒ぎ～締めくくりは52！(ご自由に)～」にて「校友会」の名のもと内陸風芋煮と庄内風芋煮の二つを販売しました。

準備の段階では、直前まで道具の用意が十分できなかつたり、八峰祭実行委員会と保健所の方々から出された様々な条件に適した材料の確保など、大変な苦労がありました。特に、材料の確保に関しては、何件かのスーパーや市場、飲食店を回り、八峰祭の2週間前にして漸く準備することができました。この材料確保は、本番前の最大の難問といつても過言ではないほどでした。材料代だけはしっかりと予算内に収め、さらにありがたいことに必要な用具は校友会事務局の方々に用意していただき、無事に当日を迎えることができました。

当日は事務局の方々3名と私を含む学生幹事5名でブースを運営しました。人手が足りなくなるほど大忙し、というわけでもなく、閉店時間まで売れ残り続けた、というわけでもなく、ゆるやかに、しかしながら確実に売れ行きを伸ばし、なんと内陸風は1時間足らずで、庄内風も1時間20分ほどで完売し、100食を超える芋煮を売り上げることができました。ご来店いただいた皆様、本当にありがとうございました。

今回出た反省などを活かし、これからも広報活動などに励んでいきたいと思います。

今回ご協力いただいた関係者の皆様には、この場を借りて感謝申し上げたいと思います。皆様本当にありがとうございました。

最後に、出店した学生幹事と事務局の方々と賄いうどんを食べ、芋煮の完売を祝いました。当日駆けつけてくださった校友会副会長でふすま同窓会野村会長さんとも懇談する機会に恵まれ、楽しい1日でした。

今年の八峰祭は、10月26日と27日に開催されます。



八峰祭開会



一般の方もお買い上げ

校友会支援・主体事業の紹介

修学支援事業

- 実践教育プログラム英語合宿
- 校友会推薦図書コーナー
「後輩には是非、こんな本を読ませたい！」
- 山形美術館を活用した学生の学習支援事業

◎「山形大学校友会大学院学生表彰制度」

学術研究活動において特に顕著な業績をあげた大学院学生を表彰する制度で、今年度は、校友会理事会で校友会長賞12名を決定しました。

表彰者には、賞状と奨励記念品5万円を贈呈しました。



これまで育ててくれた指導教員や研究室の関係者の皆さん、ありがとうございました。



在学中にもっといろいろな国へ行き、たくさんの経験をしたい。

グローバル化支援事業

- 博士課程学生研究発表奨励事業
- 大学間交流協定大学への短期派遣留学生校友会支援事業

◎「新興国学生大使派遣プログラム」

今回は10名の学生を派遣しました。現地では「山形大学日本語教室」にて、現地学生に日本語や日本文化について紹介する活動を中心に交流活動を行い、コミュニケーション能力や異文化に対する相互理解や臨機応変に対応する力を養成しました。

課外活動支援事業

- 各キャンパス大学祭への支援
- 山形大学・米沢栄養大学・米沢女子短期大学雪合戦大会
- 公認サークルへの支援
- 山形大学駅伝大会への支援

◎「ビーチサッカー大会 in 庄内」

美しい日本海に面した鶴岡キャンパスならではの企画として学生が庄内浜に集い、学部対抗でビーチサッカーを楽しむ予定でしたが、当日は気温が低く雨天のため、参加者の安全面を考慮し、場所を海岸から体育館に変更して開催しました。



この大会を支援してくださった校友会、農学部の学生、事務職員の皆様に深く感謝します。

平成30年度に実施した校友会支援及び校友会主体事業の一部を紹介します。



就職活動支援事業

- 障がい学生に特化した支援
- 学生中心に行う優良企業訪問への支援
- 地域の未来を担う公務員志望学生に特化した早期自己開発キャリア支援
- 学生によるキャリア Café の運営

◎「本学OB・OGから学ぶ業界・仕事研究セミナー」

12月9日の「OB・OGとの懇談会～業界を知る～」では35企業から53名のOB・OGの方々を講師として招き、240名の学生と座談会を、また、2月13日の「OB・OG+採用担当者との懇談会」では官公庁を含む9社から人事担当者を招き、80名の学生と座談会を開催しました。

大学・社会貢献活動支援事業

- 山大生による山形大学のための情報発信プロジェクト
- オペラの教育機能を活用した「附属校との協働」及び「高大連携事業」の推進
- 子どものまち・いしのまき復興支援事業
- 学生による地域の課題解決支援プログラム

◎「科学で東北を盛り上げ隊」

東日本大震災復興支援事業として継続して被災地における科学体験イベント「サイエンスフェスティバルin亘理町」や「科学で東北を盛り上げたい！@石巻」を実施したほか、県内外のイベント等を開催し、参加者は活動全体で3,000名を超えるました。

学生スタッフ自身もコミュニケーション能力を培うことができています。



このイベントで見たたくさんの笑顔が東北の未来を明るく照らすことを信じています。



会員相互の交流支援事業

- 卒業生の「人財バンク登録事業」を活用した学生支援事業
- 校友会会員となった新入生への入会記念品の贈呈
- 若手卒業生の組織化支援
- 校友会「学生幹事」による校友会PRと自主的な活動支援

◎「卒業生と大学・学生との連携推進事業」

各学部同窓会の理解と協力を得るために、支部総会等へ出席し、校友会活動を紹介しているほか、12月1日には「山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会」(約50名参加)や3月9日には「山形大学OB & OGセミナー」(約110名参加)を開催しました。

首都圏ネットワーク総会に参加して、私も卒業後には友達を誘って積極的に参加してみたいと思いました。

事業に参加した学生さんからのメッセージ

平成30年度博士課程学生研究発表奨励金の贈呈式が行われました

私は、昨年の11月13～17日までハワイのホノルルで行われたAsia-Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference 2018 (APSIPA ASC 2018)に参加してきました。国際学会の参加は初めてだったためとても貴重な経験ができました。

自分の発表は最終日、最後のオーラルセッションであったため、緊張しましたが、多くの研究者の方に聞いていただくことができ、質疑応答の場や空き時間の際に自分の研究に対しての興味や疑問、アドバイスなどをいただけました。

当初は、英語での意見交換は高度で自分には無理だと思っていましたが、自分以外の日本人の研究者の方々や、先



大学院理工学研究科博士前期課程 電気電子工学専攻1年
柴田 崇斗さん

生の協力もあって、海外の方々と研究についての意見交換ができることが、今回の国際学会の参加で最も有意義だと感じました。



また、日本だけでなく、海外の方々の研究を見ることで自分の視野を広げることができました。世界標準の最先端の研究は、自分の専門外の分野であっても、とても興味深く、ユーモアあふれる研究が数多くありました。国際学会を通じて、世界中の研究者が、最先端の技術などを研究し、模索しているということを改めて知ることができ、自分が大学でやっている研究も世界中の研究者がやっていることと同様のものだと、自分の研究の意義を再確認できたと思います。

最後に、今回の国際学会に参加が叶ったのは、諸先輩方や先生のご指導、そして米沢工業会・校友会の方々の支援のおかげであることを、この場をお借りして感謝申し上げます。

高校生と大学生の協働活動

「地元のこと意外と知らない…。」

2018年11月23日(金)、農学部キャンパスにて庄内地域の高校生30名と、4つのキャンパスから集まった県内出身大学生9名が8グループに分かれて、地域の課題解決をテーマにグループワークを行いました。その中で、同じグループの高校生たちから出た言葉でした。

現在、多くの地域で若者の“地元離れ”が問題視されています。今回の活動ではその問題である“地元離れ”をテーマにして、庄内地域の学校に通う高校生と共に、同じ庄内出身として、地元に対する思いを交わし合いました。その中で私たちのグループが最終的に辿り着いた課題は、「地元のことを意外と知らない」とことでした。同じ庄内でも、住む地域が少し異なるだけで、特色ある行事やイベント、お店など知らないものがたくさんありました。地元のことを知っているようで、何も知らなかったのです。そういった現実に向かい、自分の周りの当たり前にあるものを客観的な視点から見つめることで、その良さに初めて気づくことができました。そしてその良さを多くの人に伝えたいと思いました。それを実現するために、まずは自分たちが地元を知る必要があります。自分たちだからこそできることは何かを考え、学生ならではの視点からユーモア溢れる様々なアイディアを出すことができました。

日常において地元について考える機会は少ない。だからこそ、今回の活動を通して、当たり前になっている自分の周りを

地域教育文化学部地域教育文化学科 3年
佐藤 由惟さん

改めて知ることで、また違った新たな捉え方ができるのです。そんな貴重な経験ができた活動でした。私も大切な地元である山形県を守るために、何ができるのか考え、積極的に地域の活動などに参加していきたいと思います。そして機会があれば、ぜひまたこのような活動に参加させていただきたいと思います。



「山 大生の活動支援プロジェクト（II）！」 活動成果発表会を開催しました

校友会学生幹事 農学部1年
吉田 一愛さん



活動成果発表会に参加された皆さん

平成31年2月28日(木)に「山大生の活動支援プロジェクト（II）！」の活動成果発表会が行われました。

会場は小白川キャンパス基盤教育棟111教室でした。当日は、多くの方々にご来場いただきました。今回で2回目の開催となる活動成果発表会でしたが、昨年に比べて来場者の層が大きく変わっていたように感じました。昨年は学生が大半でしたが、今回は春休み中ということもあり学生の来場者は少數でした。そのかわり、大学の関係者から役場職員の方など外部の方まで、幅広い層の方々に参加していただきました。

そもそも、「山大生の活動支援プロジェクト」とは、校友会学生幹事が中心となって企画・実施したもので、学生の活動を校友会が後押しすることで学生が更に自由に幅広く活動することを目的とした事業です。

いくつかの団体がこの事業の参加に名乗り出してくれました。その中から、公正に審査を行い、さまざまな観点から総合的にこの事業にふさわしい4つの団体に支援させていただきました。今回選ばれたのは次の4団体です。（五十音順）

●IVY youth

テーマ：「カンボジアの子供たちに明るい未来を届けたい！！」

●劇団スピリッツ

テーマ：「劇団スピリッツ30周年記念公演「歌姫」」

●Team 道草

テーマ：「最上地域での学習支援」

●山形大学SCITAセンター学生スタッフ

テーマ：「新実験テーマ開発」

活動成果発表会では、いずれの団体もスライド等を使って素晴らしい発表をしてくださいました。その中から会場の皆さまの投票によって「平成30年度ベスト活動大賞」に選ばれたTeam道草には、表彰状と副賞が大場好弘理事・副学長から授与されました。また他の3団体にも奨励賞が贈られました。

今年は昨年よりも参加団体の活動内容や発表の質が高くなっていたようでした。私自身も皆さんの発表を聞いて、学生のうちからさまざまな活動に挑戦し、たくさんの経験をしたいと感じることができました。

校友会はこれからも学生の幅広い活動を応援していくと考えています。来年度もぜひ多くの皆さまのご参加をお待ちしております！！



「平成30年度ベスト活動大賞」の表彰

平成30年度（第14回）山形大学OB&OGセミナーを開催しました

校友会学生幹事 医学部看護学科1年
喜早 紘也さん

平成31年3月9日(土)、東京都港区芝浦の田町グランパーク301会議室において「平成30年度山形大学OB&OGセミナー」が開催されました。

このセミナーは山形大学と山形大学校友会が主催し、山形大学卒業生等首都圏ネットワークの後援をいただいて開催しているものです。今年で14回目となるセミナーには100名を超える多くの卒業生の皆様にご参加いただきました。

進行は校友会学生幹事の星瀬音（工学部1年）さんが務めました。セミナーは小山清人学長の開会の挨拶で始まりました。小山学長からは「これからの国立大学、山形大学の在り方」をテーマに山形大学の実績などについて詳しく説明していただきました。



OB&OGセミナーに参加された皆さん

講演は、まず大学院教育実践研究科担当の出口毅教授から「学習から学びへ～学び続ける時代の心理学」と題して、今までの学習とこれからの学びの違い、これからの時代の新たな学びの在り方について講演していただきました。

次の講演に入る前に、特別ゲストとして国立大学卒業生初の女流講談師宝井琴柑さん（山大人文学部第34回卒）が登場し、この4月から五代目宝井琴鶴へ真打ち昇進することに伴い、東京ふすま会をはじめ多くの卒業生の皆さんに温かいご支援をいただいていることに対し、その御礼も兼ね飛び入り

でのご挨拶となりました。（宝井さんには、これからもますます頑張ってもらいたいですね…。）

次いで、大学院理工学研究科担当の野々村美宗教授から「触るということ～触覚のサイエンスとテクノロジー」と題し、人が感じる触覚を機械によって再現することは医療や様々な現場にこれから役に立っていく、といった私にも大変興味深いお話をいただきました。

講演の後には、「現役山大生による活動報告」として、医学部医学科5年の笹島陽香さんから「同窓会新聞部の活動」と題し、様々なサークル活動と同時に勉学を両立している様子を発表していただきました。

また、理学部数理学科4年の高橋幹佳さんから「Agasuke Houseの取り組み」と題して、高橋さん自身の体験を基にして立ち上げたAgasuke Houseの誕生のきっかけやその現状などについて熱く語っていました。

セミナー後半には“大交流会”が開かれました。会場には学部の枠を超えてたくさんの卒業生が集い、大いに賑わい大変有意義な情報交換の機会となりました。



大交流会のスタートです…！

また、会場の一角では農学部の農場で作ったお米や日本酒をはじめ、山形大学のオリジナルグッズの販売もさせていただき、こちらも大変好評がありました。

INFORMATION

令和元年度 大学祭のご案内

米沢キャンパス「吾妻祭」

10月12日(土) ~ 14日(月)



小白川キャンパス「八峰祭」

10月26日(土) ~ 27日(日)



鶴岡キャンパス「鶴寿祭」

11月2日(土) ~ 3日(日)



卒業生の「人財バンク登録事業」に関するお願い

学生に講演や相談・就職アドバイスなどを行っていただくために、「卒業生の『人財バンク登録事業』を活用した学生支援事業」を行っています。登録期間は2年間ですが、更新も可能です。**多くの諸先輩方の登録をお待ちしています。**

なお、現在9名の卒業生に登録をしていただいております。

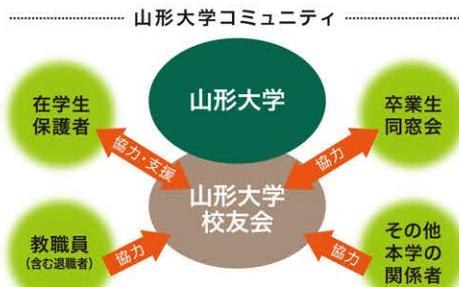
詳しくは、校友会ホームページ http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/jinzaiBank2701_3010.html をご覧ください。

校友会への入会案内

山形大学校友会に未だ加入されていない 卒業生の皆さんへ(お願い)

校友会は、学生の修学、課外活動及び就職活動並びに全学的な交流活動の支援を行うと共に、会員相互の親交を図り「山形大学コミュニティ」の醸成や強化に資するために様々な事業を展開しています。具体的な事業は、会報に掲載しているとおりですが、これらの事業は、在学生、卒業生、役員、教職員及び本会趣旨賛同者の生涯会費(1万円)で実施しています。

ついては、多くの皆さんにご加入をお願い申し上げます。会員(除く入学時加入会員)の方には、定期的に校友会会報や大学の様々な広報誌を送付しています。



入会申込手続き: 払込取扱票に必要事項をご記入の上、『郵便為替』により生涯会費1万円をお振り込みください。(払込取扱票は、校友会事務局にありますので、ご連絡ください。)

入会日: 会費の納入により入会となります。

メールマガジンのお知らせ及び 山形大学や学生への 応援メッセージ寄稿のお願い

- 校友会では、メールマガジン「みどり樹通信」を毎月配信し、山形大学や校友会に関する情報を提供しています。メールマガジンは、校友会ホームページ上から簡単に申し込みができます。
- 卒業生の皆さまからの寄稿を広く募集しています。山形大学や在学生への応援メッセージ、学生時代の思い出など何でも結構です。

メールマガジン

■山形大学校友会メールマガジン登録

「山形大学校友会メールマガジン」への登録を行います。
入力いただいた個人情報は、メールマガジンの配信のみに使用し、他の目的には使用いたしません。
山形大学校友会における個人情報の取り扱いについては、「個人情報の取り扱いについて」をご確認ください。
上記内容について同意いただき、下の登録ボタンからメールマガジンの登録を行ってください。

同意して登録

*ご寄稿いただける場合は、校友会事務局までお知らせください。

編集後記

令和元年度の校友会事業も決定し、各事業がスタートしております。これからも在学生の修学・課外活動等の支援、卒業生など同窓会等の対する事業や会員相互の親交を図るための事業を積極的に進めてまいりたいと考えております。引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

(事務局次長 鈴木直克)

山形大学エンロールメント・マネジメント部

山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12

TEL:023 (628) 4867 FAX:023 (628) 4185

E-mail:ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉 <http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>



校友会 HP



Twitter



Facebook



Instagram